

全 体 会	<p>【千葉県地域生活連携シート必須記載事項等の共有と活用および流山版 ACP に関する取り組みについて】</p> <p>①医療機関と、在宅支援者との連携について</p> <p>医療機関と、在宅支援者間の情報連携：連携が取れていないといわれる原因は、本人の様子がわからないまま退院となることが多いこと。本人の状態を確認してから退院となればこのような事態は避けられるが、すべての入院患者に対し行うことは不可能。情報連携が途切れないようにするために、入院時にはケアマネジャーから病院に千葉県地域生活連携シート A 表、退院時には、病院から在宅支援者に千葉県地域生活医連携シート B 表、もしくは各病院所定の看護サマリーの提出を徹底させたい。</p> <p>「千葉県地域生活連携シート」の活用：現行の「千葉県地域生活連携シート」においては記載事項が多く、作成に手間がかかるとの声がある。そのため令和5年度第2回介護と医療をつむぐ会でグループワークを行い千葉県地域生活連携シートの記載事項を見直してもらい、千葉県地域生活連携シートの必要記載項目のたたき台を作成した。記載項目事項、周知方法について提示した。</p> <p>意見交換：各委員より、シートの必要記載項目や使い勝手に関する意見が述べられた。各委員の意見を整理し、方向性としてはシートの必要な情報、使いやすさを改善していく方針が示された。</p> <p>今後の展望：議長から、今回の意見交換を踏まえてシートの改善を行い、全員が使いやすいものにしていくことが重要であるとの総括が行われた。</p> <p>②急変時の ACP への取り組みについて</p> <p>ACP の医療へのかかわり方と在宅介護関係者へのかかわり方の比較：何かしらの形で医療につながっている方と、在宅介護関係者のみのかかわり、また何のサービスにもつながっていない方との間で ACP のかかわり方が、異なることが強調された。医療につながっている場合は、ACP が適切なタイミングで行われており、関係者間での情報共有や、連携に問題がないとの考えが示された。一方、在宅関係者や、医療につながっていない方には、ACP の話題を切り出しにくい現状があり、口火を切るためのきっかけが必要であると指摘された。</p> <p>流山市高齢者支援計画の検討：令和 5 年5月に実施された調査結果から、ACP に関する話題が浸透不足であることが明らかになった。具体的には、ACP の考え方が一般に浸透しておらず、ACP の話題を切り出す際の利用者や家族の反応に不安があるという指摘があった。</p> <p>流山版 ACP シートの提案：事務局から流山版 ACP シートの作成提案が行われた。この ACP シートは、口火を切るためのきっかけ作りに焦点を当て、厚生労働省の ACP リーフレットを活用し、市民に対して ACP に関する理解を深めるための資料として活用される予定である。</p> <p>意見交換：流山版 ACP シートの必要性、掲載内容についての意見交換が行われた。多くの委員から、ACP の普及啓発のためには、口頭ではなく、書面での情報提供が有効であるとの意見が出された。具体的な質問内容、フォーマットについても意見が出され、参考資料、市民の関心ごとに基づいた内容が求められた。</p> <p>今後の展望：流山版 ACP シートの作成が実施される場合は、出席者からの意見をもとに内容が深められ、市民啓発班での検討が行われることが確認された。</p>
-------------	--

令和5年度第3回会議 各部会の討議まとめ

<p>多職種連携・ 体制構築部会</p>	<p>病診施連携班</p>	<p>1.在宅看取りのための症例検討会について 市内全域において、需要に対応できる専門職間の連携構築に向けて、日常生活圏域ごとに在宅看取りを支える体制を作ることを目的とする。①令和6年1月19日(金)17時から18時 ②令和6年2月16日(金)17時から18時を予定 看取り期を扱っている訪問介護所は少ないが訪問看護事業所と一緒に入っているケースが多いため、訪問看護事業所に声をかけて探すのがいいのではないかな。</p> <p>2.在宅療養支援診療所の実態調査について 流山市医師会所属の医師を中心に以前から取り組んでいた流山市の在宅医療についての概要をまとめたものを、ケアマネジャーや、地域連携に関わる医療介護関係者に配布する予定である。班員に向けてカナミックでの共有可能。今後は、1年に1回程度、受け入れ状況に関しては2～3か月に1回程度更新することを考えている。掲載病院についても今後徐々に増やしていく予定。</p>
<p>研修・啓発部会</p>	<p>専門職研修班</p>	<p>1.今後のつむぐ会について ○第4回か第5回つむぐ会で救急隊を招き「通報・受付から救急病院への受け渡しの流れまで」をテーマとした意見交換会を検討。救急隊の声を聞く機会がない。救急隊・医療機関・在宅支援者間でそれぞれの現状、責務の理解が乏しいことから、急変時の搬送について慣例として在宅支援者が対応しているケースがある。互いの現状、職務、責務を理解し連携しやすい関係性を築いていくことが目的。</p> <p>○在宅療養高齢者の一番近くにいる、本人の状態を理解している訪問介護員に実際に体験した急変時の対応について話してもらい、実情を知りたい。訪問介護員の声を聞けることは少ないのでこの企画を活用して訪問介護員の参加を促したい。どのような形をとれば参加が見込めるか検討。</p>
	<p>市民啓発班</p>	<p>1.市民公開講座について テーマ「流山でおひとり様になっても最期までご機嫌に過ごす！備えについて語り合おう」 令和5年 11月18日(土)14時から16時 初石公民館ホールで開催予定。対象：高齢者・高齢の家族を持つ若い世代 在宅医療介護関係者をパネラーとしてパネルディスカッション形式で開催。</p> <p>2.おうち療養情報紙内容について 令和6年3月21日 第10号発刊予定。市民公開講座内容の要約、在宅療養サービス業者紹介(定期巡回随時対応訪問介護看護事業所)、おひとりさま、老老介護世帯など高齢者の看取り事例かインタビュー(定期巡回随時対応訪問看護介護看護事業所の事例にしたい)、在宅療養での相談先と相談のコツ</p>